



TITLE:

<大會抄録>近代のイラン=トルコ貿易と非ムスリム商人

AUTHOR(S):

坂本, 勉

---

CITATION:

坂本, 勉. <大會抄録>近代のイラン=トルコ貿易と非ムスリム商人. 東洋史研究 1998, 57(3): 494-494

ISSUE DATE:

1998-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155211>

RIGHT:

果をあげることはできず、オスマン帝國海運は次第に外國船の手に握られていく。そうした中、一九〇八年の青年トルコ人革命は經濟界にも自由主義的機運をもたらし、非ムスリム系の影響力の強い商公省の指導の下、低迷を続ける官營汽船を民營化することによって再生しようとする計畫が立案された。しかし、これは事實上外國資本への拂い下げを意味していたため、議會では反對する勢力も多く實現しなかった。

本報告では、官營汽船の民營化問題について、當事者間で交わされた文書、契約書、議會議事録等により事實關係を整理し、計畫が實現に至らなかった経緯を明らかにし、そこから浮かび上がってくる第二次立憲制期という政治社會状況下での二つの勢力の對立の構圖を考察したい。

## 近代のイラン＝トルコ貿易と非ムスリム商人

坂 本 勉

中東イスラーム世界を對象とするこれまでの經濟史、商業史の研究は、どちらかと言うとアラブ、イラン、トルコといったかたちの枠組を設定しつつ一國史的なアプローチをしていく場合が多かったように思われる。しかしながら、ボエダーレスな經濟がますます進み、また一九九一年のソ連邦、ユーゴスラヴィア崩壊の餘波をうけて中東イスラーム世界とその周邊にいくつかの廣域的な交易市場圈が生まれようとしている現在の状況を念頭におくと、今までのよう

な一國經濟的なとらえ方には限界があり、國を越えた廣域的な交易市場、ネットワークが中東イスラーム世界において歴史的にどのようなあり方をしてきたのかを探っていくことが必要だと思われる。

このため、發表では十九世紀におけるイランからトルコにかけての地域を有機的なネットワークで結ばれた廣域的な交易市場圈としてとらえ、その構造がいかなるものであったのかを考えていくことにしたい。この市場圈で流通した代表的な商品として絹（生糸と繭）、絨毯、タバコ、綿製品、羊毛などを擧げることができが、このなかで最後の二つを獨占的に取り扱っていた非ムスリム商人、とりわけアルメニア商人の貿易活動、商業ネットワークを見ながら近代のイラン＝トルコにおける地域間交易の實態を明らかにしていきたい。

## 朝鮮初期における經濟構想

須 川 英 徳

朝鮮時代前期（十五・十六世紀）における國內商業は、同時期の日本に比するならば、不活潑な様相を呈していたと言わざるをえない。十五世紀後半になって場門（後には場市）と稱される定期市場が南部地方から出現しはじめて全國に擴大していくが、これは農民たちが自家の生産物を販賣して非自給的な手工業製品などを入手する場であった。他方、各郡縣の行政中心である邑城は地方官衙に勤